

Young Professionals Forum 若手技術者による公開討論会

株式会社建設技術研究所 水システム部
技術研修委員会 YP 分科会 矢神 卓也

日時：2012 年 9 月 10 日（月）16：00～17：30

議長：Selena Wilson (Canada)

報告者：Chee Chan (Canada), Jane Scanlon (Australia), Alejandro Varón (Spain), Nader Shokoufi (Iran), Simon Davidson (Canada)

参加数：約 150 人

1. プログラムの概要

「持続可能性(sustainability)の将来：若手技術者からの視点」というタイトルで、各国の若手技術者から自国での取り組み状況について報告があった。概要は以下の通りである。

(1) Chee Chan 氏(Canada)

気候変動による外力変化の影響により、カナダにおいてもインフラ施設の脆弱性が指摘されており、それらを効率的にマネジメントする手法として、PIEVC(Public Infrastructure Engineering Vulnerability Committee)における評価プロセスとTBL(Triple Bottom Line)解析ツールの紹介がなされた。これらのツールは、若手技術者に、気候変動問題に関する技術力、リーダーシップ向上のよい機会を与えると主張した。

(2) Jane Scanlon 氏(Australia)

「持続可能性を成功に導くため」と題して、インフラプロジェクトの中に、「持続可能性」にインセンティブを持たせるための手法と、その適用例について紹介があった。オーストラリアにおける初の持続可能性評価手法として、AGIS(Australian Green Infrastructure Council) IS ツールが紹介され、プロジェクトの計画段階から、建設、維持管理にわたって適用できることを説明した。

(3) Alejandro Varón(Spain)

スペインにおける鉄道分野での「持続可能性」に資する、主に省エネに繋がる技術の紹介がなされた。概要は以下の通りである。

- ・ 電車のブレーキによって生じる電力を、架線を通じて別の電車の動力に変える技術
- ・ 高低差なく路線を計画すること。
- ・ 建物内の熱循環、日本の発電床。

- ・ ディーゼルと電気のハイブリッドトレイン
最後に、電車が飛行機、車等より少ない CO2 排出量、電力で移動ができるということを主張した。



(4) Nader Shokoufi 氏(Iran), Simon Davidson 氏(Canada)

YPFSC が、FIDIC 大会開始前に実施した、グリーンプロジェクトに対する各国の若手技術者の意見についてのアンケート調査の結果の発表を行った。

調査の母数はイランから 6 割とやや偏ったものであったが、概ね以下の通りである。

YP にとってのグリーンプロジェクトとは、

- ・ 企業の公の信用を得ること
- ・ 業界の中において信頼を得ること
- ・ YP の役割をさらに重要にすることができる等の支持が高かった。また、グリーンプロジェクトに関する知識は、エンジニアや NGO が詳しいが、プロジェクトの決定権は、役所にあるという取りまとめもあった。

2. 所感

AJCE も YPF での発表に向けて手を挙げていたが、願いがかなわず発表できなかった。

「持続可能性」たるもの(省エネ、節水、等々)を取り入れることによって、そのプロジェクトに大きな利益をもたらすという、仕組みや技術革新をまだまだ考えていく必要があると感じた。